

議事録

みなと高等学園 学校運営協議会（コミュニティ・スクール）

令和6年度 第3回会議

日 時 令和7年3月5日（水）
午後3時00分から午後4時30分まで
場 所 みなと高等学園 校長室

<会 次 第>

(1) 開 会

(2) 会長挨拶

(3) 学校長挨拶

(4) 協 議

① 今年度の活動について（逢坂教頭より説明）

スライドショーを見ていただき、今年度の主な活動の様子、卒業生の様子を紹介した。質問ご意見は出されなかった。

② 学校評価 総括評価表について最終報告（逢坂教頭より説明）

A 委員	インターネット上においても、いじめが起きにくい環境づくりに努めたいっていうのを裏返したら、今年は、インターネット上でもいじめのような課題が出てきたっていうことにはなりますか？
事務局	インターネットの使い方に関しては、毎年生徒たちの中で嫌な思いをしたという相談がある項目ではある。ただそれがそのインターネット上だからっていうことではなく、学校においてもインターネット上においても、みんなにとって安心安全が大事という話をしている。個別に対応している状態で、取り出した学習を改めてできていない状況である。
B 委員	スマホの中のように思うが、実はその先には誰でも見られる世界が広がっていることはなかなか想像しづらいっていうのが、今のネット社会だっていうところもあるので、是非ここは積極的にお願いして

	<p>できればと思う。</p>
事務局	<p>保護者に対しても、私たち学校が介入できる部分とそれから保護者の方にお子様のスマートフォンの使い方について、確認をさせていただいたり、話し合っていたりする必要がありとお話ししている。基本的にはご家庭で管理をしていただくということを新1年生入学説明会の時に保護者の方にお話をしている。</p>
C 委員	<p>「生徒が教員に相談し問題を解決していこうとする姿勢の育成につながった」事例があれば教えてほしい。先生が声をかける前に自分から言ってくれるようになったなど具体的な例はありますか？</p>
事務局	<p>「ゆる☆トクウィーク」週間を設けている。教員が普段の指導は横に置いて、ゆったりとした時間の中で生徒の話を傾聴的に聞く期間。中学までの経験でがんばらなくてはと学んでいる生徒が「しんどい」「休みたい」など怒られるかもと心配せずに相談できたという事例は聞いている。</p>
事務局	<p>研修でも、話しを聴く練習をしている。将来相談できる力は大切になる。在学中に、教員が相談しやすい雰囲気や場を作り、「相談できた」「誰かと解決できた」という生徒の経験の積み重ねができていと感じている。</p>
D 委員	<p>個人の仕事にも大変参考になる話しを伺った。生かしていければと思う。</p>
C 委員	<p>個別の指導計画の効果的な活用の項目に「希望研修」とあるが、具体的にどのようなものがあるか？</p>
事務局	<p>研修としては、「みなと一く」という自主研修は年6回企画している。例えば、教員自身のメンタルケアまたは生徒にとってのロールモデルとしてリフレッシュ方法を実践しているということは大切なので、リフレッシュ方法の体験講座を行った。また自立活動について知識を深めるなど教員に必要ではないかと思う項目をその年々で考えて企画している。</p>
A 委員	<p>センター的機能の充実の評価指標に、「外部依頼の相談件数」が挙げられているが、相談という性質上受動的であるため、数字として評価指標に挙げるのではなく、能動的な働きかけに対する評価を設ける方がいいのではないか？</p>
事務局	<p>貴重なご指摘であり、来年度に引き継ぎたい。内容の検討や相談のニーズの傾向分析など考えていきたい。</p>
D 委員	<p>業務改善の項目で、変形労働時間制というのが挙げられたが、それは可能なのか？</p>
事務局	<p>本校の変形時間労働制の仕組みについて説明</p>

などのご意見をいただき、承認された。

③ 来年度の学校教育活動に対する御意見、御要望について

A 委員	昨日、ハナミズキ・乳児院・みなと高等学園合同防災会議を開催していただいた。小松島市役所危機管理課の方にもお越しいただきご助言いただいた。3階部分に備蓄品を1日分置いておくなど気づくことも多く、来年度も安全な避難体制の構築に向け、継続的な協議をお願いしたい。
E 委員	先日も3年生に適応能力講座に参加していただいた。これからも連携をお願いしたい。
D 委員	キャリア教育の一環として、外部機関の各種検定のとあるが、ビルクリーニング技能士3級を始め、履歴書に記載できる検定を目指してほしい。ビルメンテナンス実習で外部を訪問する際の公用車の購入に関しても是非検討していただきたい。
C 委員	特別支援コーディネーターとはどのような仕事をしているのか？
事務局	本校の特別支援コーディネーターの業務について説明。校内支援体制の構築、他機関との連携、専門的な知識がいるため負担が大きいことは事実。
B 委員	定員割れが懸念される中、学校の魅力が十分に伝わっていない可能性がある。生徒が自身の希望する進路を選択肢として学校を認識していない現状がある。
A 委員	開校当初は話題になったものの、時間の経過とともに学校への認識が薄れている可能性もある。受け身ではなく PUSH 型の広報を考えていただきたい。

などのご意見をいただき、承認された。

(5) その他

次年度の学校運営協議会の委員囑託については、個別に連絡させていただきたい

(6) 閉 会

(資料)

- ① 学校評価 総括評価表(最終報告)